

平成 22 年度 滋賀県がん診療連携協議会・第 3 回企画運営委員会 結果概要

日 時：平成 23 年 3 月 2 日（木）午後 2 時～

場 所：滋賀県立成人病センター東館講堂

出席者：成人病センター（鈴木副院長）、

滋賀医科大学附属病院（醜腫瘍センター長、今堀課長補佐、野本）、

大津赤十字病院（大野部長、水野課長）、公立甲賀病院（沖野副院長）、

市立長浜病院（入江がん相談支援センター副センター長）、

滋賀県健康推進課（角野課長）

研修調整部会長（滋賀医大 谷教授）、緩和ケア部会長（成人病センター 堀科長）

事務局：成人病センター（田中参事、田中室長補佐、沼波主査）

欠席者：成人病センター（那須事務局長）、公立甲賀病院（西田事務次長）、

彦根市立病院（寺村診療局長、和気課長）、市立長浜病院（寺田理事）

がん登録推進部会長（川上副院長）、診療支援部会長（滋賀医大 藤山教授）

1 各部会の平成 22 年度取組状況および平成 23 年度取組予定について

（相談支援部会、緩和ケア推進部会、がん登録推進部会、地域連携部会、診療支援部会、研修調整部会、協議会全体）

（鈴木委員長）

- ・ 各部会等の取組状況および来年度の取組予定について協議します。

（相談支援部会事務局）

- ・ がん相談 Q&A を平成 22 年 4 月に協議会 HP へ掲載。がん拠点病院 HP、患者会（あけぼの滋賀）HP にリンク先を掲載しました。
- ・ がん相談 Q&A の内容等は追加・修正を実施しました。3 月中に更新内容をまとめる予定です。2 月末現在で、Q&A のアクセス数は 1684 件。さらに周知を進める必要があります。
- ・ 今年度と同様に 23 年度も相談事例検討会を継続実施する予定です。
- ・ がん患者サロンは 5 病院で設置済み。今後もアンケート結果等に基づく運営改善等について議論を進めていく必要があります。がん患者ピアサポーター養成講座の調整にも協力しました。
- ・ がんのセカンドオピニオン提示体制一覧の更新を行い、協議会 HP に掲載しました。22 年度は、対象疾患を増やした形で更新を行いました。来年度も更新する予定です。
- ・ セカンドオピニオンの実施状況について、平成 22 年度 1 月末の状況を調査しています。6 病院で 122 件です。21 年度は 125 件でした。23 年度の取組予定としては、セカンドオピニオンの実施状況を継続調査（対象疾患別の件数も把握）していきます。
- ・ 国立がん研究センターが発行する患者必携に関する情報交換を実施しました。
- ・ インフォームドコンセント実態調査は、県健康福祉部が検討を進めているところで、平成 23 年度予算も確保される予定です。

（緩和ケア推進部会事務局）

- ・ 滋賀県緩和ケア研修会開催状況ですが、本年度 9 回予定し第 8 回まで終了したところで、合計 182 名が修了し、内訳は、医師が 146 名、看護師が 33 名、薬剤師 3 名。開業医の先生方は 40 名です。
- ・ 本年度は単位型統一研修を導入し、共通プログラムの研修を行うことにより、単位の互換が可能になり、研修を受けやすくするよう工夫しました。医師の他にメディカル受講も可能としました。多くの主催病院で「連続する日曜日」に開催していましたが、受講者と主催病院の負担軽減を図るため、「隔週開催」も可能とし、開催日程の弾力化を図っていく予定です。
- ・ 看護師対象緩和ケア研修は、平成 22 年度は講義 1 日、見学実習 3 日で、彦根市立病院と成人病

センターで開催し、参加人数は5名でした。実習施設が2施設（彦根市立病院・成人病センター）で、期間や開催回数、受入人数を増やすには限界があります。23年度も研修を継続する予定。

- ・ 緩和ケアをテーマにした講演会の開催については、世界ホスピスデー記念県民公開講座を10月に開催しました。各病院等でも緩和ケアをテーマとした講演会等が多く行われているので、開催時期等が重ならないよう情報交換を密にしていく必要があります。
- ・ 緩和ケア地域連携クリニカルパスについては、病病連携パスは成人病センターでは80%以上やり取りが可能になったが、病診連携パスは、まだ数例に留まり、さらに推進する必要があります。
- ・ 国立がん研究センター等研修派遣調整については、指導者研修会の希望者等を聞きました。精神腫瘍の指導者が不足しています。

（がん登録推進部会事務局）

- ・ 各病院の現状把握をしたところ、がん登録業務の人材確保に困難な施設が出ています。
- ・ 意見交換、実務の相談支援は、6月に成人病センターで実務研修、9月に市立長浜病院で実務相談会を開催しました。実務研修では、特に今年度はUICCの改版がありご講義いただいています。
- ・ データ収集は、国立がん研究センターの院内がん登録室から、滋賀県のデータ精度に問題があるとの発言がありました。今年度1月末に2009年度データを提出しますが、その直前に診療データを収集し確認する作業をしました。最終的に問題箇所を指摘して、各医療機関が修正をして提出する段取りにしたのですが、最終結果は各医療機関からは報告はまだ受けておりません。精度管理については、もう一度問題点を中心に来年度に生かしていく形で取り組みます。
- ・ 2009年診断分データ収集の結果、がん登録実務者が留意すべき点について9項目ありますが、各医療機関にお渡しています。国立がん研究センターにはUICCで提出することが必須になっていますし、エラーチェックのツールをかけても9項目に関してはエラーがかからないという状況もあるので、やはり実務者がしっかりとデータを作ることが大事です。
- ・ 予後調査、データ公開に関しても、来年度何らかの形で公開できるようにしたいと思っています。

（地域連携部会事務局）

- ・ 平成22年4月から「5大がん地域連携パス」は運用を開始しました。平成23年2月末現在、胃がん23件、大腸がん26件、肺がん0件、肝がん2件、乳がん2件、合計54件の運用です。平成22年10月より5支援病院が参加し、長浜赤十字病院で胃がんパスが4件運用となりました。
- ・ 医療圏別の運用状況ですが、大津湖西医療圏では5件、湖南医療圏では20件、甲賀医療圏では9件、湖北医療圏では19件、湖東医療圏では1件、東近江医療圏は運用がされていない状況です。
- ・ 課題としては、まだまだ運用数は少ないので、「5大がん地域連携パス」の周知・広報・啓発への取組をしっかりと取り組んでいただきたいと思います。がん診療連携拠点病院から積極的に地域連携パスを運用して、支援病院へ情報提供するという形で、「がん診療連携ネットワーク」推進のための組織体制の強化が継続的な地域連携には必須と考えています。今後は診療報酬上で、がん治療計画策定料を請求したパス運用へ繋げるよう考えています。運用件数の少ない肺がん、肝がん、乳がんのパスについて、専門医の参加をお願いし作業部会のほうで見直していく必要があります。
- ・ 23年度の取組予定ですが、パス研修会について、部会長病院だけでなく県下6医療圏の持ち回りで開催する予定です。23年度は進行がんの地域連携パスを作成していく予定です。

（診療支援部会事務局）

- ・ 診療支援・医師派遣の制度化について検討しました。医師の派遣は現実的には行われており、今年度末に向け、がん診療を対象に、各拠点病院間や対病院間の人的交流の実績調査をします。
- ・ 高度医療の推進に関しては、ホームページの作成等を検討していきます。

（研修調整部会事務局）

- ・ がん関係フォーラム・講演会等開催情報については、定期的に3か月ごとに情報を提供いただき、ホームページの更新を図ることで通知しました。今後の情報提供は、患者側から見てもわか

りやすくするよう「テーマ」等を入れて公表し、参加者数を報告していただくことにしました。

- ・ 今後のフォーラム・講演会等の開催計画のあり方は、患者側の希望するテーマおよび放射線治療関係をできる限り取り入れ、またがん検診の受検者増加を考慮した計画の策定を要請しました。

(協議会事務局)

- ・ 各部会からの報告を踏まえて、今後の方向性等の案を整理しましたので説明します。
- ・ 協議会については、取組成果の患者さん等への周知がまだまだ必要というご指摘を受けています。協議会 HP の更新、HP 以外の発行物の作成や配布も考える必要があります。
- ・ 企画運営委員会については、各団体が抱えている拠点病院の運営上の課題等、随時議題を募集するなど、何らかの解決策を見出していける場にする必要があるのではないかと思います。
- ・ 相談支援部会については、がん相談 Q&A の内容更新、項目増の継続が必要と思われます。
- ・ 緩和ケア推進部会について、努力いただいているところですが、まだ修了者を増やしていく必要があると言われてしています。引き続き、普及に取り組んでいただく必要があります。
- ・ がん登録推進部会については、がん登録の精度管理の取組を精力的に進めていただいた。今後は、がん登録データの分析・評価・活用を進めていただきたいと思います。
- ・ 地域連携部会については、順調に取組を進めていただけていますが、胃・大腸以外のパスの拡大、進行がんのパスの検討が必要です。各圏域での地域連携パスの検証、運用も課題と考えられます。
- ・ 診療支援部会については、診療支援の仕組みの検討段階に留まっており、今後どう進めるか検討する必要があるかと思います。高度医療の推進も目立った取組がまだなく、具体的な取組の実施が必要と思われます。例えば、部会主催で高度医療に関する講演会の開催などといった何らかの取組の検討が必要だと思います。
- ・ 研修調整部会については、23 年度の開催情報の早期の把握と情報共有を進め、調整を進めていただく必要があると思います。研修の参加者のニーズの調査や反映等は検討いただいているところですが、各拠点病院の研修会・講演会等への企画提案などといった研修計画作成の取組を進めていただく必要があります。研修プログラムの立案等の調整をしていただけると、部会もより充実したものになっていくと思います。
- ・ 以上は、あくまでもこれは素案として申し上げたものです。こうした方向性で良いかどうかご議論いただければと思います。

(鈴木委員長)

- ・ 部会順に議論していきたい。まず相談支援部会について、いかがですか。

(県健康推進課)

- ・ がん相談支援センター相談員事例検討会に、拠点病院の市立長浜病院と彦根市立病院が参加されていないのは、何か理由があったのですか。

(相談支援部会事務局)

- ・ 病院の都合あるいは当日の人員の都合等で、どうしても人が出せなかったようです。

(市立長浜病院)

- ・ 現在 3 つの病院で相談員が長期で休んでいる状況です。全て仕事が原因というわけではないと思いますが、相談支援センターの業務、課題がとて多くなっています。県が実態把握いただいて、指導や調整に入っていただけるとありがたい。

(県健康推進課)

- ・ 相談支援センターは、病院の外来業務等もあり人員がしばられているかも知れませんが、その代わりとして十分ではないにしても、各拠点病院には補助金が入っています。その補助金も来年度は少し減ります。国は診療報酬をしっかりとみる形で、昨年 4 月に保険点数を上げてます。相談支援等、非常に大事な部分に人を回してくださいという意味で診療報酬を上げています。そのあたりは、各拠点病院の管理者の方にご説明させていただきたいと思います。

(鈴木委員長)

- ・ セカンドオピニオンの利用状況ですが、二つの病院が 0、もしくはほとんど 0 に近い数字で推移していますが、間違いはないか精査いただいている状況です。緩和ケア推進部会に質問ありますか。

(公立甲賀病院)

- ・ 募集定員の倍の応募が来ています。支援病院の制度ができたので、支援病院の先生方が来られていて、今後も同様になると思います。ファシリテーター不足の問題が出てきて、二日とも全員出席できるか難しいところです。各病院に派遣をお願いすることもあるのではないかと思います。

(鈴木委員長)

- ・ 教える側のマンパワーの問題ですね。専門的なトップのファシリテーターはまだ少ないですか。

(緩和ケア推進部会長)

- ・ 指導者は増えてきました。市立長浜病院には 5 人いらっしゃいます。
- ・ ただ、精神腫瘍医の指導者が少ないです。精神科医でがんに関わるドクターが少ないということもあるのですが、精神腫瘍医をもう少し作っていく必要があると思います。

(鈴木委員長)

- ・ ファシリテーターの確保は、一つの課題ですね。

(緩和ケア推進部会長)

- ・ 支援病院も緩和ケア研修に協力しなければいけないという項目があるので、支援病院の先生方に講師の協力をお願いするのもいいかと思います。

(鈴木委員長)

- ・ よろしいでしょうか。続きまして、地域連携部会にご質問ありませんか。

(緩和ケア推進部会長)

- ・ 23 年度は進行がんの地域連携パスを作成することですが、どの程度までやるとお考えですか。

(地域連携部会長)

- ・ 胃がん、大腸がんを中心に、素案を作りつつあるところで、実際取りかかってみると大変です。今は議論が広がって、まとめに入れられない段階です。作業部会を毎月やって、なんとか夏前には部会で承認をもらおうという計画です。

(緩和ケア推進部会長)

- ・ 点滴で分子標的薬を使うとか、入院して導入しなければいけないものがあると、なかなか地域に戻せない。もう一点は再発した時にどうするのかということがある。

(地域連携部会長)

- ・ そのあたりも論点の一つです。

(緩和ケア推進部会長)

- ・ どんなふうに緩和ケア地域連携パスとつなげるか考えています。一緒に仕事をしたいと思います。

(地域連携部会長)

- ・ 作業部会のメンバーからもそんな話が出ています。

(県健康推進課)

- ・ 6 医療圏の運用実数ですが、医療圏ごとの数とされているものは、拠点病院 + 支援病院の運用実数と読んでいいのかどうか。

(地域連携部会長)

- ・ ここで医療圏ごとの数字としているのは、湖北を除いて拠点病院ごとの運用件数です。湖北では、4 例が長浜赤十字病院で運用されています。それ以外には支援病院からの参加はまだゼロです。

(県健康推進課)

- ・ 東近江医療圏はゼロですね。

(地域連携部会長)

- ・ 東近江医療圏では、現在、滋賀医大附属病院で検討されていると聞いています。

(滋賀医科大学附属病院)

- ・ 東近江がん診療連携協議会を立ち上げて、ようやく組織ができてきたところです。今後の方向性としては、病病連携と病診連携、もう一つは支援病院をどう動かすかが課題です。

(県健康推進課)

- ・ 例えば草津の人が大津赤十字病院で最初に手術をして、草津の届け出している病院につながれ、パスが運用されると、どこにカウントされるのですか。

(地域連携部会事務局)

- ・ 大津赤十字病院でカウントされます。

(県健康推進課)

- ・ これは何の数をカウントしているものなのか。圏域ごとというより、むしろ各拠点病院、支援病院がパスをどれだけ運用したかという数を出していったほうが、いいと思う。

(協議会事務局)

- ・ この表にある医療圏ごとの数は、湖北以外はすべて拠点病院の数として読み替えれば良い。

(地域連携部会事務局)

- ・ 拠点病院と支援病院と分けて一覧を作らせていただきます。

(鈴木委員長)

- ・ もう一度わかりやすく整理してください。
- ・ 続きまして、診療支援部会についてお願いします。

(県健康推進課)

- ・ 23年度に実施される実態調査ですね。制度化に向けて前に進めていただく必要がある。

(鈴木委員長)

- ・ 今後に期待したいと思います。次は、研修調整部会についてお願いします。

(公立甲賀病院)

- ・ 各病院での講演会も、この病院は何月頃としておけば、非常に企画がしやすいです。先月、長浜と一日違いで、ほぼ重なり、テーマもほとんど重なってしまいました。
- ・ 研修調整部会でいくつかのテーマをあげて、割り振ってもらった方がバッティングすることも無いと思います。研修調整部会で拠点病院がやるフォーラムに関しては、こういうインセンティブで、とある程度規定してもらおうと、モチベーションが上がるかと思います。

(緩和ケア推進部会長)

- ・ 例えば成人病センターの緩和ケアの講演会なら、5月と10月に開いている。そういう固まったものがあれば、まず出してもらって、部会が何をやっているか集計していかれたらいいと思う。何月に何をやっているか、まずどこかで集約してもらおうといいと思います。

(研修調整部会長)

- ・ 4月、5月頃に大変少ないのでその頃に開催していただけるよう働きかけていただきたい。病院のご事情聞きますと、予算や準備の関係もあって早くにはできないと言われます。
- ・ フォーラム等は決まったら受けるしかないし、調整できません。緩和ケア研修も緩和ケア推進部会で決められています。だから、皆さんにできるだけ参加していただけるように、ホームページに載せる程度になります。調整を超えて指導という話も出たが、無理と言われました。

(県健康推進課)

- ・ 決める以前に、各病院からまず、例えば3月中に来年度考えている日程を全部送っていただいて、それを共有すればいいわけですね。計画段階でみんなが情報共有できると良い。

(研修調整部会事務局)

- ・ 既に平成23年度の予定を2月末現在の時点で、3月15日期限として照会しています。

(市立長浜病院)

- ・ テーマの重複ということについては、調整はできないのですか。

(研修調整部会長)

- ・ 調整は難しい。患者会さんからのこういう希望がありますとか、放射線の技師さんの会が少ないとかは発信している。主催される立場から決められるのに、変えなさいとはなかなか言えない。

(市立長浜病院)

- ・ 研修調整部会で今年のテーマはこれと決めていくことはやはりできないか。

(県健康推進課)

- ・ 企画運営委員会で、こういうテーマで各病院いきましょうとか、割り振る働きをしたらどうか。

(協議会事務局)

- ・ 研修調整は、研修調整部に与えられた役割であり、それを無しにしたら研修調整部の業務は何もなくなってしまいます。そうしたことはできないと思います。

(研修調整部会長)

- ・ 調整するよりは、たくさんやってもらったほうがいいと思います。2年間経過して、数が多くなったので、評価と効率的なものが薄れつつあります。それをどうするかというのは、今先程おっしゃった参加した方のインセンティブも議論になると思います。

(市立長浜病院)

- ・ 乳がんや化学療法が多いですが、がんリハビリを進めていかなければいけないと思っています。その辺をテーマとして病院が持つていくような方向性を持ちたいと思い、県に実施をお願いした。

(県健康推進課)

- ・ がんリハは、意見を出してみんなで考えてということ是可以する。

(研修調整部会事務局)

- ・ 研修調整部会が一般の方に参加証を出す話も出た。しかし、誰がそれをカウントするかとかそれを全部開催するところに要求しなければいけないなど難しい問題がある。インセンティブを与えようと思ったら、結局、地域の自治体が学会などと連携しなければならないと思う。

(県健康推進課)

- ・ 次回、研修一覧を出していただけるとありがたい。

(鈴木委員長)

- ・ また皆さんのご意見を聞きましょうか。

2 滋賀県がん医療フォーラム開催結果について

(協議会事務局)

- ・ 1月22日開催の滋賀県がん医療フォーラムですが、参加者数は310名で内訳は一般195名、医療関係者115名でした。各拠点病院の皆様、大変ご協力いただき、ありがとうございました。
- ・ 来年度もほぼ同時期くらいにやっていきたいと思います。

(鈴木委員長)

- ・ 付け加えますと、質問コーナーを設け、非常に好評でして、そこで対処しきれない質問もたくさんございました。協議会のホームページにアップしております。

3 がん診療連携支援病院の位置づけおよび県がん診療連携協議会等との連携について

(県健康推進課)

- ・ 地域のネットワークの中で、地域がん診療連携拠点病院が中心として、ネットワークが作られ、支援病院がしっかりと支えるという位置づけになっております。
- ・ 支援病院と拠点病院の連携ですが、支援病院はネットワークの参画を必ずするという事です。

その参画という意味で、先程ご意見ありましたように、研修をするときも支援病院がするのではなく、拠点病院がすることを積極的にお手伝いしていただきたいと考えています。

- ・ 支援病院のご意見も非常に大事ですので、各圏域でのがん診療のネットワークをしっかりとやっていただく中で、支援病院の様々な意見を拠点病院で吸い上げていただいて、企画運営委員会や部会に反映していただきたい。逆に協議会や部会で出た意見についても拠点病院から支援病院に情報提供していただきたいと思っています。

4 県からの報告事項等

(1) がん対策推進計画の中間評価について(がん医療関係)

(県健康推進課)

- ・ 平成 22 年 9 月から 10 月にかけて中間評価にかかる調査を実施しました。
- ・ がんの年齢調整死亡率は、目標年度の平成 28 年の値しか挙げていませんでしたが、平成 24 年においては 71.0 以下を目指すことを加えさせていただきました。
- ・ がん患者およびその家族の苦痛の軽減については、ならびに療養生活の質の維持向上については、その質的な検討も必要だというご意見をいただいております。
- ・ がんの予防については、肥満者を減少することもがんの予防と大きく関係することから、肥満者の減少についても目標とし、肥満予防を図る必要があるという意見があり反映しました。
- ・ がんの早期発見については、非常に良い値が出ている。今まで低いと言われていたのは、あくまでも市町が実施する住民検診のがん検診で、一般企業での検診等も入れると上がってくる。肺がんについては、本当に 50%あるかどうかは、胸のレントゲンを撮るだけで肺がん検診とってをつけられる方も十分ありうるのかなど。胃がん、乳がん、子宮がんはそうそう間違える人はいないと思う。わかりませんが、調査方法には限界があるので、使わせていただきました。
- ・ 緩和ケアの推進についてですが、緩和ケア研修を修了された開業医が増えたと聞いています。
- ・ 在宅医療の推進ですが、24 時間定期訪問看護を行えるステーションの増加ということで、県の在宅医療推進協議会の目標がありますが、1 箇所から全く増えない状況にあります。基準としてとれるところは 1 箇所しかないが、実際 24 時間連絡がとれる体制がとられているところは、結構あります。現状として 24 時間の連絡体制があることを表現すべきだと書かせていただいております。
- ・ がん医療に関する相談支援及び情報提供ですが、がん患者・家族のみでなく遺族に対する支援も入れるということです。
- ・ がん登録ですが、地域がん登録協力医療機関、院内がん登録実施医療機関は横ばいで、大きく増えてはいませんが、実態として今登録していただいているところは、がん患者を多く治療されているので、情報がしっかり入ってくれば、ほとんど患者の届け出がされているものと考えられるのではないかと。むしろ登録の精度の向上につながっているのではないかとと思われる。
- ・ こういう感じで中間評価、協議会が終わりましたので最後に委員長にチェックいただいております。

(2) 平成 23 年度がん対策事業概要およびがん対策関係予算の概要

(県健康推進課)

- ・ 現在県議会で予算審議されております。まだ確定したわけではないですが、数字も出させていただいております。既に始まっていますが、がんの予防に向けての子宮頸がん等ワクチン接種促進事業が入ってきたところで、県下では全市町において接種が開始されたところです。
- ・ がん診療連携拠点病院機能強化事業費補助ですが、地域の方で 100 万円減額になったということです。だいたい昨年度並みの予算であります。
- ・ 国の来年度予算の中で、都道府県がん対策推進事業の中で、地域統括相談支援センターを設置する予算というのがみられていますが、滋賀県としては、今回乗るつもりはありません。まず、今、

各拠点病院さんをお願いしている相談支援センターをしっかりと充実させたいと、地域統括が将来必要であればやるということにしたいと考えています。地域統括相談支援センターは、病院以外に設置することになっていますので、もう少し考えさせていただきたいと思います。先程出た地域医療再生計画については、各病院、各医療機関からアイデアを出していただきました。がん対策ということで、予防から治療までということで、予防については検診ということを中心に、検診機器の整備、デジタルのレントゲン機器の購入を補助するとか、各病院でマンモグラフィを買うとかそういうものやっていきたいと考えています。治療については一般の病院もされるところはありますが、拠点病院、支援病院まではできるだけ充実させたいと思います。

- ・ 人材育成の部分も、先程出ておりましたがんリハも地域医療再生計画の中でなんとか盛り込んでいきたいと思っています。あくまでも国にあげて認められるかという問題はありますが、県の考えはそういう考えでいます。何とか25年度までに均てん化を進めたいと思っております。

(鈴木委員長)

- ・ がん患者ピアカウンセラー養成事業の予算はつきそうですか。

(県健康推進課)

- ・ つけました。それから、がん患者サロンの予算は、高島圏域でやってもらうための旅費をつけた。

(鈴木委員長)

- ・ 相談支援に関しては、スタッフの拡充、アメニティの向上などが必要ですね。

(以上)